第 2017-15 号

恵みと真理のニュース

2017 年 4 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］ 神様は肺結核を治療してくださって 健康な息子をくださいました

私はカンウォンドの田舎で生まれ1970年まで暮らしました。当時、私が住んでいた地域では教会がなかったし、伝道されたこともなかったです。後で京畿道のカソンで引っ越しをしてスワンにある電子会社で働いた初めて伝道されました。

職場で昼休み時間になると早く食事を終わってからみんな集まって礼拝を捧げました。私はそれが神様に礼拝をささげることだと後で知りました。私はただ見物をするだけで彼らが話をするのを聴くだけで、続けて聞くうちに無意識の中で主の祈りを一人で覚えるほどでした。その意味も知らないのに町を歩いたり家事をする時もよく主の祈りを暗唱をしました。このように自分がよく主の祈りをおぼえると偶像崇拝をしていた母は家が滅びると主の祈りをしないように叱りました。このことがあって1年が過ぎて私が病名も知らないまま症状が酷くなって会社まで辞めました。様々な治療を受けても治らなくて食欲もなくなって体重もたくさん減りました。それだけでなく一人で家に出てさ迷って町でぼっとして座っていると母が私をあちこち探しました。私は私の行動も記憶しなくて後で母が話して下さって自分がした行動を知りました。私のためたくさん心配をしていた母は巫女を呼んで祭祀をしても治らなかったです。

私に関するうわさが広がって、ある日は教会に通っている執事が私の家に来て教会に行こうと母を誘いました。誰よりも酷く偶像崇拝をした母でしたが娘の病気を治せる心で私を教会に連れて行きました。初めて教会に行ったとき礼拝の講壇で説教をする牧師を見ることが出来ませんでした。おかしいが体が重く感じられたからです。そして、牧師に祈りを受ける時は目が痛くて心もとても痛くなって足をバタバタしました。また、イエス様の話が聞きたくなかったです。

特にイエス様が十字架でくぎに打たれ流れた血の話を聞くと鳥肌が経つほど怖かったです。それて、母にイエス様のまで血の話だけはしないように願いました。私の心に悪い霊が入ってしまったのです。母はそんな私を連れて休まずに教会を通い熱心に信仰生活をしました。神様に祈りもたくさんしました。すると　聖書に出てくるスロボニゲの女の娘を癒してくださったのように神様は私の心を治療してくださいました。以後、私は教会に行って礼拝を捧げるのか楽しくて水曜日と日曜日を待ちました。

再就職のため身体検査を受ける過程で私が肺結核の判定を受けました。悪い霊は私の体に入って治された経験もあって結核に対する知識がなかったので初めはすぐなくなると思いました。それで続けて薬を飲まなくて咳をする時だけ薬を飲みました。それでも聞かなくてだんだん強い薬だけ飲んで肝臓も悪くなって顔が黄色くなりました。病院に入院までして治療を受けましたが症状はむしろ酷くなりました。咳が止まらなくて一回よどおし咳をしたら黒い血まで出ました。すると、治る信仰もなくなって薬も効かなくて注射も効果がなくてこのように死ぬしかない。”と否定的な考えをしました。

死んだら主の前に立つのに主のためなにもしたことがなかったです。礼拝だけでも熱心に捧げようと思って主日礼拝と平日礼拝、祈り会も休まずに参席しました。そうすると咳も止まって痰と血が出ないことを悟りました。私はすぐ検査を受けるため病院も行かなかったです。なぜなら、全ての事を主に委ねたから、一時的な現状だけで治らなかったとしても魂が救われたのも感謝の信仰状態になったからです。時間が経って他のことで病院に行って検査を受けてみましたが、医師が驚いて病気を患った跡だけ 残っていて完全に治療されたと言われました。神様が治療してくださいました。

私が結婚すると思った時、母は必ずイエス様を信じる旦那と結婚しなければいけないと言って姑が執事だった家で嫁にいきました。どころが、姑とは違って旦那は主日の以外に金曜礼拝に参席するのを反対しました。そうすればするほど私は、金曜祈り礼拝をもっと愛して 秘かに通いました。ある日は、区域聖徒に教会のカレンダを配って家に帰って来たら区域長のカバンがハサミで 切れていました。それでも落胆しなく旦那の救いのため祈りながら最善の努力をしました。するとついに神様の時になると神様が旦那が変化され尊い信仰を与えてくださいました。その時から主日礼拝には必ず参席して毎日肯定的な信仰で神様に祈る生徒になりました。私が妊娠する時でした。妊娠の喜びもまもなく、医師は私が強い薬を飲んで健康ではない子供を産む可能性もあると言われました。その話を聞いて家に戻るときに悩みと心配で涙を流しました。心配になって病院に行く時に 超音波検査を受けようとしましたが、医師は腕や足がなければ検査を受けることが出来ますが、 指や足指がないのは検査に出ないと言われました。何か月後、健康な息子を出産しました。息子は良く育てられ今は職場生活をしていて教会で熱心に奉仕しています。感謝する神様の恵みです。

ハレルヤ！私の思い病気を癒してくださった主のラパの神様、健康な息子を生まれるようにして福ある家庭になるようにしてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。このすべての栄光を主に捧げます。神様が延長してくださったこの命が終わるまで神様の畏れ愛し、神様の御心に従順して生きます。

［信仰コラム］ 私はイエスキリストを信じます

”我はその独り子、我らの主、イエスキリストを信ず”（使徒信条）

聖書は神様が与えてくださる救いの恵みと真理が啓示された本です。このような内容を体系的に整理したのが教理であります。従って、教理を学ぶことは健全な信仰を持ち、力動的な信仰生活をするにとても有益です。まるで人の体から骨と筋肉を健やかにするのと同じです。使徒信条はその教理の要点を約して作った信仰告白です。使徒信条の中で”我はその独り子、我らの主、イエスキリストを信ず”を調べてみます。

まず、”その独り子”としました。

”その独り子”はイエス様は私達のように肉親を持たれていますが父なる神様と同等な本性を持っており、イエス様には充満な神性と無限な知恵と能力、聖なることがあるのを指しています。神様が独り子をこの世に送らせたのは人々に向いた神様のこの上のない愛を表せたのです。（ヨハネの第一の手紙 4:9、10）イエス様は神様から送られた救い者として人間を全ての罪悪から救うためにこの世にお越しになった神様の独り子であります。（ヨハネによる福音書 3:16）唯一な救い主であるイエス様以外には他の救い主があり得ません。（使徒言行録 4:12）”神様の独り子”と呼ばれる方はイエス様だけであるからです。

次は、”我らの主”としました。

イエス様は彼を信じる者達の主でおられるだけではなく、全宇宙の主でおられます。（コロサイ人への手紙 1:15～17）実際に、人類の歴史はイエス様を中心に計算されて記録されています。歴史の年代を記述する時に B.C.あるいは A.D.だと表記します。B.C.(Before Christ)は”キリスト誕生の以前”を意味して、A.D.(Anno Dommini, in the year of our Christ)は”主の時”という意味でイエス様誕生の以降を意味します。イエスキリストは歴史の分水嶺であります。イエス様を主として仕える人はイエス様が言われたお言葉の権威と権勢の下に全幅に従って生活するのが当たり前です。主の思い、主の求め、主のお言葉に逆らう自分の主張、理論、思想、哲学、習慣、趣味、そして何であれ主の思いに相反するのを全て十字架につけるべきです。（マタイによる福音書 16:24）イエス様が生活の中心になれば私達の生活が秩序と安定を持つようになり誠な幸福を享受するようになります。

その次は、”イエスキリスト”としました。

’イエス’という名前はイエス様の誕生前に天使がヨセフに指示した名前です。（マタイによる福音書 1:21）イエス様は父なる神様の送りを受けて罪人を救うためにこの世にお越しになりました。’キリスト’という呼称は’油で注がれた者’という意味を持っています。旧約聖書を見るとユダヤ国には王、祭司長、予言者を立てる時には油を注いで将立しました。その当時、この職務は厳格に三権が分立されていて他の領域を侵犯することができませんでした。しかし、イエス様は王、祭司長、予言者の職務を全て持たれ救いを全て叶えられました。イエス様は予言者、祭司長、王としての職務を全て完全に遂行なさったキリストであります。誰であれ全能であり天地を造りなさった神様を信じることだけでは救いを得られません。神様の独り子、我らの主、イエスキリストを信じることで救いを得ます。

”我はその独り子、我らの主、イエスキリストを信ず”と諳じる信仰告白に含まれている内容を整理すると次のようです。”イエス様は父なる神様と同等な本性を持たれた神様の独り子でおられるのを私は信じます。””イエス様は宇宙と歴史、私達の生活の主であり中心でおられる主であることを私は信じます。””イエス様はご自分の民を彼らの罪から救われる救い主であり、私達に神様の思いと将来あることを言われてくださり、仲介者になってくださり、王的な権勢で治められて保護してくださるキリストであることを私は信じます。”

歴史上そして永遠にイエスキリストという御名より私達に尊くて尊貴な御名はありません。イエスキリストがどなたであるかを誠に知るようになるとイエスキリストの御名に膝をまずかない者がなく、その御名を賛美しない者はいません。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

義に飢えかわいている人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

人間は獣と違いもうより良い未来に対する理想を持っていつも努力します。 そして科学技術の飛躍的な進歩と産業のまぶしい発展を成しました。 しかし地球あちこちに間欠的に発生する天災地変は人間の成した文明が一瞬に崩れ落ちて虚しくなることができることを警告してくれます。 天災地変ではないとしても人間の知恵と力の産物である科学技術が返って人類の破滅をもたらさせることもできます。 なによりも人間生存に最大の敵は疾病です。 多くの伝染病を現代医学が征腹したが今も伝染病は世界人口の三人の一人以上を死に追い払っています。
世の中にははじめから人の生存を脅威する自然災害と各種の疾病と戦争があったのではないです。 聖書にその原因が啓示されています。 アダムとエバの犯罪がこのすべてのものの原因です。 神様の命令を逆って罪を犯した人間に死亡と呪いが宣告されました。 罪は命と幸せに致命的な損傷をもたらす原因です。 だから損傷と苦痛と死のない世の中になろうとすれば罪が除去されなければならないし義のある人だけいる所にならなければなりません。 天国がすなわちその所です。 天国はただ義人だけがいる所です。 この世の中はいつか終末が来ます。そして最後の審判があります。 その日に義人と悪人が分離するでしょう。 罪人は決して天国に入ることができないです。 天国は義人だけがいる所です。
このような事実を思いながら “義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう。” というイエス様のお話をよく見ます。

第一、義に飢えかわいている人 と言うのは ‘霊的な渇望’です。

人々は誰も地位、名誉、権勢、物質に対する欲求を持ちます。 このようなものなどに対する欲求は肉体に属した欲求です。 その外にも人には霊的な欲求と渇望があります。 義は肉体のではなくて霊的のです。 世俗的のではなくて神霊なのです。 イサクの息子、エサウとヤゴブを比べて見ます。 彼らは双子兄弟でした。
エサウは体格が壮健で狩りも上手で性格も円満でどこでも人々に歓迎を受けました。 彼は自分の肉体の能力によって自信満満としました。
エサウは世の中のことに対する欲望は強かったが霊的なことに対しては関心がなかったです。
一方にヤゴブは幼い時からお母さんの周囲をくるくる回わる生活をしました。 リブカが懐任した時に神様が聞かせたお言葉があります。
“主は彼女に言われた、「二つの国民があなたの胎内にあり、二つの民があなたの腹から別れて出る。一つの民は他の民よりも強く、兄は弟に仕えるであろう」。”(創世記 25:23)
ヤゴブはお母さんからこのような神様の啓示に関するお話を関心深く入ったはずです。 ヤゴブは神様がくださる口約束と福を大事に思って切に望みました。 そしてアズキ粥で兄エサウと掛け合って長子圏を渡されました。 それだけではなく自分がエサウであるのように変装して年上で目が暗いお父さんに行って長子に祈ってくれる祝福の祈祷を受けました。
ヤゴブが長子圏を獲得して、お父さんに行って祝福を受けるためにやった行為は穏当ではないが彼が霊的なことを慕って切に望む態度は高く評価するに値します。
ヘブル人への手紙 12 章に記録されるのを “また、一杯の食のために長子の権利を売ったエサウのように、不品行な俗悪な者にならないようにしなさい。
12:17 あなたがたの知っているように、彼はその後、祝福を受け継ごうと願ったけれども、捨てられてしまい、涙を流してそれを求めたが、悔改めの機会を得なかったのである。”(ヘブル人への手紙 12:16,17) しました。 エサウは神様がアブラハムの家門を通じて成そうと思う口約束に対して無関心でした。 長子圏よりアズキ粥をもっと貪ったし、親がはばかる異邦女人と結婚しています。 彼は世の中のものに愛情を抱きました。 霊的な渇望がなかったです。 それによって許諾された福を喪失しました。 一歩遅れて自分の過ちを悟って涙を流しても無駄になりました。

第二、‘義に飢えかわいている ’ 人のように義を慕わなければなりません。

イエス様がおっしゃった ‘飢えかわいている ’ と言うのは単純なあこがれや漠然たる期待を言うのではなく飢えて死んで行く人の飢えのようであり、今飲まなければ死ぬようになる人の喉の渇きのようなのです。 ヤゴブがヤブボック川渡り場で夜中に神様の御使いと取り組みながら祝福を切望したその心情で私たちが義を慕わなければなりません。 ヤゴブが家を離れ発ってから 20 年ぶりに自分の家族と奴婢と獣群れを従えて帰郷に上がりました。 ヤブボック川端に至ると 20 年前の事が彼の脳裏に走馬燈のように通りました。 怒る兄エサウを避けて逃げた事が思い出しました。しもべを送って調べたら兄がヤゴブの消息をきいて 400 人の壮丁を走って来ているというのです。 ヤゴブは皆先立って送って一人きりヤブボック川渡り場に残って悩んだ中に夜が近付きました。 急にある人がヤゴブを抱きしめました。 びっくりして押しのけ出そうとじたばたしている途中瞬間奇妙な感じを持つようになりました。人ではなく神様の御使いと判断されたのです。 すると彼は神様の御使いを屈強につかんで祝福してくれるのを切に求めました。 ヤゴブがしつこくつかんで祝福を求めたら神様の御使いがヤゴブの尻骨を打つので尻骨が脱骨されました。 そんな後にヤゴブに祝福しました。 ヤゴブが神様の御使いにしつこくぶら下げられたその姿勢を私たちが模範としなければなりません。 義を慕う熱心と切望がこれと同じではなければなりません。 義に飢えかわいている人のように義を慕って切に望む人は福があります。

第三、義に飢えかわいている というお言葉で ‘義’が何やらよく見ます。

人は彼が生まれて何の善や悪を行う前に罪人です。 人は生まれ時から罪性を持った罪人で生まれるようになります。 聖書は宣言するのを “「義人はいない、ひとりもいない。”(ローマ人への手紙 3;10)と言ったし “すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、” (ローマ人への手紙 3:23)と言いました。 罪人には神様の震怒がその上にとどまっています。 終わりには神様の審判を受けて地獄の刑罰に処されるようになります。 その所は苦しむ所です。 地獄刑罰を免れるためには義のあるようにならなければなりません。
聖書がおっしゃる義とは道徳的な義ではないです。 行為による義ではないです。 神様が要求する義は罪を一番も犯さない状態を言います。 聖なる義のある神様の前に立つことができる資格を言います。

第四、 “義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう’と言いました。

神様がくださる義を慕って切に望む人を神様が無視しないです。 “彼らは飽き足りるようになるから。” と告げました。 このお言葉は神様から義があると判決を受けるようになるというお言葉です。 神様が罪のない神様のイエスキリストを世の中に送って罪人の罪を代わりに担当させました。 そしてイエスキリストを信じる者は義があると判決します。 真実に恵まれた消息で奇妙で驚くべきな恵みです。 “罪の赦しを受けて義のあるようになるのを切に望む人はイエスキリストを信じて迎接しなさい。”
神様が私たちに要求することはこれだけです。
“義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足りるようになるであろう”
イエス様が親しくおっしゃいました。 イエスキリストを信じるだけで神様がくださる義でお腹いっぱいを得るようになります。 ローマ人への手紙 3 章に記録されるのを “それは、イエス・キリストを信じる信仰による神の義であって、すべて信じる人に与えられるものである。そこにはなんらの差別もない。 すなわち、すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており、彼らは、価なしに、神の恵みにより、 キリスト・イエスによるあがないによって義とされるのである。”(ローマ人への手紙 3:22～24) しました。 義のあるようになる道は非常に簡単で明瞭です。 “イエスキリストを信じる者は義のある。” これは裁判長である神様の判決です。
‘義に飢えかわいている ’ という単語は現在的で持続的な状態を意味します。 義を慕うことは一瞬間だけではなく現在的で継続的ではなければなりません。 いつも永遠にイエスキリストによる義を頼って生きて行くように願いします。 ‘義に飢えかわいている ’ 状態は義のあるようになるのを切に望むことだけではなくイエスキリストの恵みで義のあるようになった人として義人らしく生きるようと切に望むことも含まれます。 イエスキリストを信じれば罪の赦しを受けて義のあるようになります。しかしこの世を生きる間に義人らしく神様を嬉しくしながら生きるのを切に望まなければなりません。

イエスキリストを信じて義のあるようになった皆さんは義人らしく、聖徒らしく生きるのを飢えて喉が乾く者のように切に望んでください。
義に飢えかわいている人はさいわいであります。
イエスキリストにあって神様の義を贈り物でもらうようになります。 義に飢えかわいている者がさいわいであります。 日々に義のある者らしく生きるようになさる聖霊様の能力が臨むようになります。 皆さんはこんな生活をしている途中 遂に義のある新しい天と新しい地で永遠に福楽を享受しながら暮すように願いします。